

福岡市ウォーターフロントネクストシンポジウム 2017

開催概要

目的:今年4月中旬からの第2期展示場等の事業者公募開始や、中央ふ頭西側の岸壁延伸により、5月にはアジア最大級のクルーズ船が中央ふ頭へ初入港するなど、『ウォーターフロントネクスト』の取組みが動きはじめていることを受け、広く市民の皆様や民間事業者の方々とウォーターフロント地区の再整備の意義やまちの将来像などについて考え、より魅力あるまちづくりとしていくため、シンポジウムを開催したものの。

会期: 2017年5月31日(水)

会場: 福岡国際会議場5階(福岡市博多区石城町2-1)

主催: 福岡市

後援: 内閣府, 国土交通省

- 1. クルーズ船見学会 12:00~14:00** 場所: 中央ふ頭クルーズセンター
・アジア最大級のクルーズ船「オーバーシオン・オブ・ザ・シーズ」に乗船

申込者数	291名
参加者数	約70名

- 2. シンポジウム 15:30~18:10** 場所: 福岡国際会議場5階 501会議室

申込者数	423名
参加者数	約400名

- (1) 主催者あいさつ 福岡市長 高島 宗一郎
- (2) 国土交通省あいさつ 国土交通省大臣官房審議官 七尾 英弘氏
- (3) 基調講演 Jeff Bent氏(香港ワールドワイドクルーズターミナル社 社長)
「カイトック: 香港における新たなターミナルとウォーターフロントエリアの開発」
- (4) パネルディスカッション
「港に創出される賑わい, 観光・ビジネスによる新たなまちづくり」
モデレーター: 福田 隆之氏(内閣府大臣(官房長官)補佐官)
パネリスト: ジェフ ベント氏(ワールドワイドクルーズターミナル社 社長)
: ファビアン リム氏(セントーサ開発公社シニアマネージャー)
: 小夫 孝一郎氏(ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社)
: 工藤 和美氏(シーラカンズK&H代表取締役, 東洋大学教授)
: 光山 裕朗(福岡市住宅都市局長)

開催結果

1. クルーズ船見学会



2. シンポジウム

(1) 主催者挨拶

福岡市長 高島 宗一郎



- ・福岡市の国際会議の開催件数は政令市では全国一位。マリンメッセや福岡国際センターの稼働率は9割に近く、お断りが発生している状況である。
- ・クルーズの寄港数についても、平成27年は、横浜を抜いて、外航・内航合わせて全国一位となっている。
- ・東アジアクルーズは、カリブ海・地中海クルーズとほぼ同じスケール感であり、人口は圧倒的に我々の住む東アジア圏内の方が多い。東アジアのクルーズ利用率が他のエリア並みに上がってきたとき、圧倒的に人口が多いこの圏域は急成長する、そうしたポテンシャルを持っているということが分かる。
- ・MICE、クルーズ、港としての賑わいを一体化させて、ここのポテンシャルを开花させられないか。それがウォーターフロントネクストという福岡市のプロジェクトである。
- ・今後10年間で「クルーズ」「MICE」「賑わい」が一体となった東アジア有数のインバウンド拠点をつくっていきたいと考えている。これから、海洋国家日本復権の象徴としてのウォーターフロント地区のまちづくりを、多くの事業者の皆さんや関係者と一緒になって実現させていきたい。

(2) 来賓挨拶

国土交通省大臣官房審議官
七尾 英弘 氏



- ・国土交通省では、東京オリンピック・パラリンピックの年である2020年までに、訪日旅行者数を4,000万人にしようとしている。
- ・昨年、2016年の訪日クルーズ旅客数は約200万人と過去最高になっており、博多港のクルーズ船寄港数は、328回と日本一であった。今、福岡市が我が国のクルーズ振興において傑出した存在であることは言をまたない。それをもっともっと押し上げていかなければいけない。
- ・国としても、日本再興戦略の中で、クルーズ船向け旅客ターミナル施設やMICE施設にコンセッション制度が活用されるよう、仕組みが検討されている。現在、急成長中のインバウンド分野において、博多港の新たな取組みが全国に広がることを心から期待している。

(3) 基調講演

香港ワールドワイドクルーズターミナル社 社長 ジェフ ベント氏

「カイトック：香港における新たなターミナルとウォーターフロントエリアの開発」



- ・香港では20年前にセントラル・ハーバーから郊外に空港が移転し、香港中心部に300 h a 以上の大規模開発を行う歴史的な機会となった。
 - ・香港では土地を政府が所有し、人々に長期で貸しており、地代が香港政府の収入源の重要な部分を占めている。不動産価格が非常に高いことから、開発によってさらに収入が増えることが見込まれ、政府も取組を進めている。
 - ・香港のクルーズターミナルは、まちから離れた海辺ではなく、中心部に整備されているため、人の目につくところにあり、それがまちづくりの付加価値となっている。
- ・カイトックの開発は当初、香港島と九龍島との間を埋め立て、住宅地を開発し、それに関連する複合的な施設を建設する計画であったが、その後、アジア通貨危機が起こったため計画が見直しとなり、クルーズターミナルの計画が新たに加えられた。その後、緑化計画、景観への配慮、歴史的建造物の保全、道路計画、環境計画など、さまざまな検討が行われた。人々のニーズは時間とともに変化するため、様々な人々の意見を尊重しながら、将来に向け反映させていくことが大切である。
- ・国際クルーズ市場は毎年5%以上の成長率であり、特にアジアが急成長しており、2013年にアジアは全世界の約3.4%の市場シェアだったが、2014年には4.4%に、2015年には6%になってきている。近年アジア地域にクルーズ会社が注目するようになり、2016年には9.2%と急成長し、より成熟した市場になってきている。最近では、北米に次いで、中国が世界第2のクルーズ船利用客数になり、クルーズの目的地として福岡は非常に人気が高まっている。
 - ・香港では、政府がターミナルを整備し、運営を民間に任せており、我々はクルーズ船を迎える以外にも多くのイベントを開催するなどし、利益を生み出すようにしている。
 - ・クルーズターミナルにはカフェ、レストラン、結婚式や宴会など、さまざまな施設があり、新車展示会やダンスパーティー、スポーツイベント、コンサート、映画の試写会など、さまざまなイベントを実施している。

(4) パネルディスカッション 「港に創出される賑わい、観光・ビジネスによる新たなまちづくり」

パネリスト

ジェフ ベント氏 (ワールドワイドクルーズターミナル社 社長)



- ・博多港においては、中国からのインバウンド対応だけでなく、アウトバウンドのマーケットも育成することで更なる成長が望めるのではないかと。
- ・香港では民間事業者が港湾を運営しており、事業者は顧客をよりよく理解し、ニーズへの迅速な対応や運営の効率化などが図られよう努めている。

ファビアン リム氏 (セントーサ開発公社シニアマネージャー)



- ・MICEにおいてビジネス利用客は非常に重要で、一般客の2倍の消費力を持ち観光収入の主要な部分を占める。政府はシンガポールを世界一にするためツアー商品開発、イベント支援、人材育成などMICE振興を支援している。MICE参加者には、限られた時間の中で宿泊・食事・ショッピングなども楽しんでもらう必要があり、近接性は非常に重要である。
- ・セントーサ島にはホテル、会議場、商業施設、水族館、ユニバーサルスタジオ、ゴルフ場、ロープウェイ等が複合的にバランスよく整備され、会議時間以外も楽しめるようになっている。

小夫 孝一郎氏 (ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社)



- ・福岡市は陸・海・空のアクセスが良く、市街地は非常にコンパクトであり、アジアの玄関口として非常に高いポテンシャルを持っている。空港から都心部まで地下鉄で5分というのは世界的に例がなく、福岡は投資家からも非常に人気のある都市であり、ホテル、マンション、オフィス、商業施設など各セクターに分散投資されているのが福岡の特徴である。
- ・インバウンド客単価は日本のショッピングセンターの客単価の約7倍と高く、この地区特性をまちづくりに生かせないか。
- ・福岡市のコンパクトな都市特性を生かして、インバウンドだけでなくアウトバウンドも促し、日本のお手本になるようなまちづくりを期待する。

工藤 和美氏 (シーラカンスK&H代表取締役, 東洋大学教授)



- ・素晴らしい都市デザインで世界の人々を惹きつけていくことは、新しいまちづくりを牽引する上で非常に重要である。楽しさ・賑わいのポイントとしては、食べ歩きや皆に愛されるアイコン、インパクトのある建築などが考えられる。また、ハード面だけでなく、何かを世界に発信する、世界の方々がそこを訪れるようなプログラムも大切である。
- ・コンベンション、ターミナル、商業が一体となったまちづくりに向けては、大博通りと港側をつないだ上で、デッキ、緑化、景観など共通ルールに基づき整備していくことが重要である。大博通りから港が見えれば、港のまち・博多を印象づけることができる。海辺の解放感を確保することや海辺を楽しめる歩行空間づくりなどにより、「人」を大切にしまちづくりを進めてほしい。

光山 裕朗 (福岡市住宅都市局長)



- ・クルーズ、MICE、賑わいが一体となったまちづくりを目指しており、施設整備・運営の事業手法としては、公共施設は「PFI+運営権方式」、民間施設は「定期借地方式」の活用について検討している。今年度、事業手法や交通対策等の検討をさらに進め、早期の事業者公募を目指して、議論を進めながら、しっかりと整備を進めていきたい。

モデレーター

福田 隆之氏 (内閣府大臣(官房長官)補佐官)



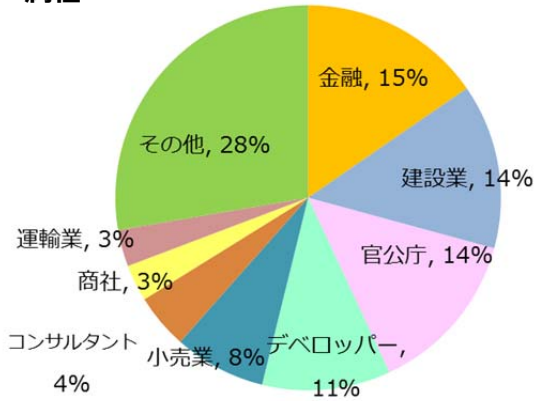
- ・このプロジェクトの重要性を考える上での切り口は「複合的」。複合的な要素から生まれる付加価値とは何かを皆さんと共有し、そこに向かって進んでいくというのが大切である。
- ・資源を有効活用し、地域のために成長させていこうという民の動機を生かし、民の力を最大限に使っていくべきである。
- ・民の力を発揮していく上で守ってもらうべきルールを市側がしっかりと整え、民間のダイナミズムを生かしていくことがこのプロジェクトを成功させる上で重要である。



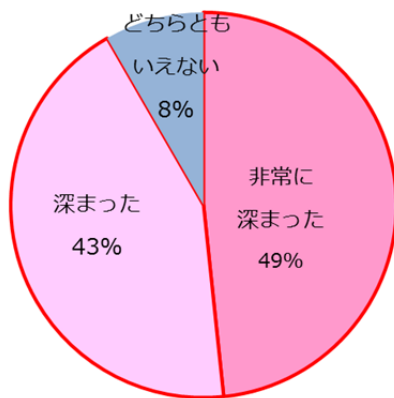
アンケート結果

1. クルーズ船見学会について (有効回答数=65)

■ 属性



■ WF 地区再整備の取組への理解



<見学会及び WF 再整備に関する主な意見>

(見学会について)

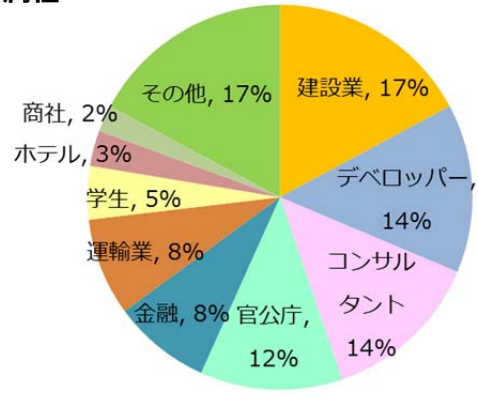
- ・市の本気度が伝わった。
- ・有料でもいいからこういうイベントをやってほしい。
- ・機会があれば利用したいと思った。
- ・WF 再整備の理解を深めるいい機会となった。
- ・博多港にクルーズ船の発着があることを知らなかった。
- ・クルーズ船の楽しみなど、もっと深い解説があるとよい。
- ・客室の見学ができればよかった。

(WF 再整備について)

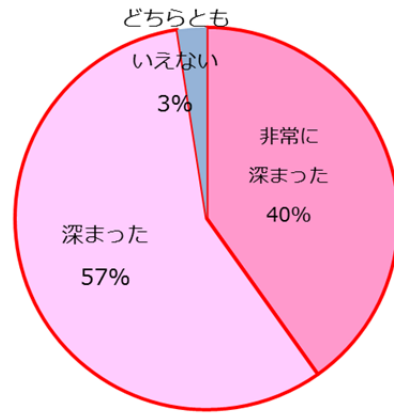
- ・海の玄関口にふさわしい施設にしてほしい。
- ・是非これまでにない創造性のあるものを実現してほしい。
- ・回遊施策を検討してほしい。
- ・ベイサイドも活性化してほしい。
- ・ピアそのものに魅力的な施設があるといい。
- ・日常的な賑わいが生まれるといい。
- ・クルーズ・MICE・賑わいの相乗効果を見込むのは難しい。
- ・市民への情報発信を進めてほしい。
- ・船側からみて美しいといいなと思う。
- ・ランドマークがほしい。
- ・中心地からのアクセスを良くしてほしい。
- ・人が流れてくるような仕組みが必要。

2. シンポジウムについて (有効回答数=134)

■ 属性



■ WF 地区再整備の取組への理解



<シンポジウム及び WF 再整備に関する主な意見>

(シンポジウムについて)

- ・内容の濃い、示唆に富むシンポジウムだった。
- ・市長からビジョンがよく伝わった。将来が楽しみになった。
- ・ウォーターフロントネクストへの理解がとて深まった。
- ・船社から見た福岡市のポテンシャルも聞いてみたかった。

(WF 再整備について)

- ・ロープウェイは是非実現してほしい。
- ・空港や博多駅からのアクセス改善に期待。
- ・大型ホテルの誘致が重要。
- ・これから、民・官がうまく Win-Win の関係ができるプロジェクトを進めてほしい。
- ・香港のターミナル内で様々なイベントを行い、収益を上げていることは、日本にはない発想だと思う。
- ・将来に向けた前向きな投資なので積極的に進めてほしい。
- ・空港や駅からの動線が課題。
- ・交通インフラの整備、観光に資する魅力づくりが必要。
- ・クルーズや MICE 利用者だけでなく、市民や国内旅行者も楽しめる場所になればいいなと思う。
- ・開発計画の具体的な内容を早急に決定し、スピードアップしてほしい。